

中経論壇

経堂支援助NPOクラブ
参与 山本章博



異常気象が続いている。5月の半ばであるのに全国各地で30度を超え、35度以上の猛暑日を記録した地域もいくつかあった。このような現象は過去にはないそうだが、振り返ってみれば、今年の春は桜や、庭の草花の開花が早かった。熱帯夜が続いた昨年を思い出すと今年の夏はどんなことになるのか心配になる。

国連の世界気象機関(WMO)は4月21日に気候変動に関する年次報告を発表し、世界の氷河が昨年、劇的なペー

スで融解したことを明らかにした。過去8年間の世界の平均気温は観測史上最高を記録し、南極の海水面積は過去最少に縮小し、スイスのアルプス山脈の氷河融解ペースも過去最高だったそうである。洪水や熱波による異常気象や大規模火災などの頻度も世界的に増えている。

温暖化について、「地球は複数回の氷河期が存在し、温暖化と寒冷化を繰り返してきた。現在の温暖化はその一環なので、いずれは寒冷化に向かう」というのんびりした意見もあったが、そのような繰り返しは10万年という自然のサイクルの中で起きて

5月半ばに各地で30度超え

いる現象である。一革命前の約1.5倍になり、世界の平均気温を押し上げていく。また、大量のCO₂は起きている、多くの「海洋の酸性化」も引き起こし、サンゴや貝類、魚類など野生生物が環境の変化についていけず、生態系全体に深刻な打撃を与えている。

も高い。事実、ホツキョクグマをはじめ、絶滅の危機に瀕している野生動物は2千種近くになると言われている。「気候変動に関する政府間パネル」(IPCC)第6次報告では、人間活動の影響で地球が温暖化していることについては「疑う余地がない」と初めて断定的な結論を下した。温暖化の主原因は大气中のCO₂の増加だが、CO₂濃度は産業

もの言わない動物や植物のためにも人類が責任をもつて解決する義務があると思う。しかも、時間的な猶予はない。私たち一人一人ができることは何でもしていく必要がある。食品ロスを少なくする、製品のリユース、樹木を植えてCO₂を吸収させる工夫、太陽光発電の設置、エネルギー効率のよい電気製品への買い替え、高断熱の省エネ住宅など。個人の努力にプラスして行政が補助金で後押しし、企業や研究者が本気で取り組めば実現可能ではないだろうか。環境に関する展示会も各地で盛んに開催されている。展示会などに出かけて、新しい状況や対策などを学ぶことも大切なことである。

一人一人が温暖化対策を